

令和7年度 新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 議事要旨

日時： 令和8年1月28日（水） 午後2時～4時

会場： 新潟市美術館 講堂

出席者： 新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 大竹委員、捧委員、佐藤委員、鈴木委員、田中委員、塚田委員、馬場委員、三保委員、山浦委員
事務局 高田文化スポーツ部長、新潟市美術館 滝沢特任館長、田中館長、高橋副館長、高橋総務係長、荒井学芸係長、塚野学芸員、島田学芸員、菊池学芸員
新津美術館 高橋館長、南場係長、奥村係長、上池主査、山岸主査、小野学芸員

○ 議事

(1) 新潟市美術館・新津美術館 令和6年度事業報告（令和7年度事業途中経過報告含む）について

(事務局)

パワーポイントのスライドと資料に沿って、新潟市美術館と新潟市新津美術館の令和6年度の事業報告と参考に令和7年度事業経過報告について説明。

(田中委員)

新潟市美術館、新津美術館と立て続けに改修工事がありながら、いろいろな工夫をして両館が存在感を發揮し素晴らしいと思った。新津美術館の改修工事について、もう少し伺いたい。この改修はどういったところを重点的に改修されたのか。また、今後大きく変わるところなどあるのか。

(高橋館長)

一つ目に、屋上と屋根の防水が大きい改修で、雨漏りが出ないようにコーティングした。二つ目は貨物用の大きなエレベーターの入れ替え、三つ目は防災設備で館内の様々な表示灯や感知器などを入れ替えた。

(田中委員)

作品を守っていくために、いずれも非常に大事な工事だと思う。利用者の利便性を上げるといったところは特にないか。とりわけカフェとかはどうか。

(高橋館長)

意匠の関係は変わっていないが、一部汚れていたところは修繕して綺麗にした。カフェは現在、事業者が撤退しているので、再公募を始めている。各所に働きかけながら募集をしているので、今しばらくお待ちいただきたい。

(塚田委員)

新潟市美術館の寄贈作品について、もう少し教えていただきたい。石油関連会社の個人コレクターが2点、ピョートル・コンチャロフスキー、ワシーリー・ポレーノフの作品をご寄贈くださったということで、これから個人コレクターの方からのご寄贈はますます重要になってくるだろうと思っているが、こちらの方は初めてのご寄贈だったのか、今までもあったのか、お聞かせいただきたい。

(荒井係長)

今回の方は初めてで、県外在住の方だが、当館がコンチャロフスキー作品を所蔵していることからコンタクトがあり、当館学芸員が調査に行った。収蔵の背景には、同じく収蔵作家の現実会の矢部友衛がロシアに渡った際にこの画家と意気投合したことから、その矢部の支援者であった

新潟の財界人もコンチャロフスキーと接点ができたという経緯がある。今回の寄贈は、寄贈者の親族が持っていたもので、自宅ではもう維持できないということで相談を受けた。県外ではあるが、辿ってみたところ、新潟あるいは満州に関わる仕事をされていたことがわかりお受けすることになった。作品の他にも、当時の写真などを資料としていただいている。今後同じ方から次々にとは考えにくいですが、こうした交友関係が見えてきたのは大変意義があったと思う。

(塚田委員)

大変興味深い事例だと思う。見に来るお客様も以前よりもこういったことに興味を持ち始めているという実感がある。活用を楽しみにしている。

(荒井係長)

当館もデジタルアーカイブを始めたばかりだが、全国の収蔵品が簡単に参照できるようになってきているので、これから寄贈したいという希望のある方が、作品を持っているところに声をかけるといった動きが出てきていると感じている。

(大竹委員)

学校向けの教育普及事業について、実施した6つの講座の中で白根北中学校の1、2年生だけが中学校を対象にしている。参加人数が7名と少数だが、ここだけ著しく少ないのは何故なのか、なにか意図があるのならば伺いたい。

(奥村係長)

中学校の実施希望の時期が、ちょうど運動部が試合で校外に出ているタイミングに合わせた形で、美術部関係から声がかかった。中学校からの希望が少ない状況の中、得難い機会として出向いた。

(大竹委員)

NHKにも作文コンクールのようなものがあるが、応募がどんどん減ってきて先細り感があるので気になって質問させていただいた。中学生が興味を持ってくれてよかったと思う。

(佐藤会長)

学校現場では、アトリップなどの出前授業は新潟市校長会を通して紹介される。当然美術の担当者も知っているが、学年で7～8クラスもある大きな学校だと引率が大変であるという理由から、1～2クラスの学校の応募が多いと思う。一番ありがたいのは無料のバスを手配いただけるので、美術館が近い学校より、遠い学校の子どもたちが美術館に行く機会がもっとあればいいと思う。また、中学校の部活動の新潟市内大会時では体育会系の部活は皆校外に出るが、文化系、特に美術部の活動では、アトリップ等の美術館事業を積極的に活用して、本物に触れて欲しい。私たちがさらに周知や支援をしていきたいと思う。

(馬場委員)

令和6年度の遠藤彰子展に非常に感銘を受けた。近年、こういう迫力のある作品を見ることなかった。新津美術館でも二年前になるが、ゴールデンカムイ展が非常に大きな反響を得てタイムリーだった。新津美術館は新津市美術館の時からタイムリーなものをされている印象が強く、その辺の企画力もなかなか素晴らしいと以前申し上げたことはあった。改修後の新潟市美術館では改めて来た時に、照明が一段と良くなって、非常に明るくて見やすくなった。特に美術館は照度を落としていることがあるが、照明がしっかりしていると細かな部分まで鮮明で見やすくなり好印象を持った。一つ聞きたかったのは、新津美術館と新潟市美術館という一つの市で二つの美術館がある。美術館経営が非常に難しいということは、以前から前山前特任館長もお話になっていたが、今回、大きな改修をした後の中期や中長期の事業計画があるものなのか、KPIが存在し

てどういう形で運営をしていくのか、新潟市美術館と新津美術館の二つの美術館が持っているカラーと言うかコンテンツの方向性みたいなことが定められているのか伺いたい。

(高橋副館長)

美術館の事業として外向けの大きな事業としてはやはり企画展になるが、相手があったりする中で中長期的なKPIはない。一方で毎年度組織目標というものを作っていて、入館者数やアンケートの点数など目標を定めている。

(滝沢特任館長)

二つの美術館のカラーということでご質問いただいた。昨年4月に着任し、新潟市美術館は改修工事で休館はしていたが、美術館の活動や資料を見たり、職員と話しをする中で、いろいろと考えることもあった。両美術館の企画展の開催の棲み分けに関して、以前の協議会で、新潟市美術館は絵画、彫刻、版画などの伝統美術分野と言えるようなファインアートの展覧会を中心に企画し、新津美術館は絵本やマンガ、アニメといったマスカルチャーに通じるような、現代では美術として認められているような分野の展示をしていくというお話をさせてもらっている。その時の考え方を基に、もう一度そのあり方について精査をし、職員に周知を行った。基本となる展覧会を五つに分類し、新潟市美術館では国内外のファインアートを主に開催し、新津美術館では絵本やマンガ、アニメ等を紹介する展覧会を主に開催していくということで、それぞれの美術館のカラーを出しつつ、多様化する市民のニーズに両館が一体的に運営することで応えていくという方向性を打ち出している。

(山浦委員)

新潟市美術館には、以前、この協議会で所蔵品をとにかく見せて欲しい、展示して欲しいとお願いした。休館明けの展覧会では、お持ちの作品や資料を1000点展示いただき、非常に見応えがあった。それから素直にこういうものもお持ちなのかと共鳴もし実感を持った。それで二匹目のドジョウを狙うわけではないが、新津美術館も笹岡一資料をはじめ、かなりの点数のコレクションになっていると思う。テーマの選定とかいろいろあるとは思いますが、二年、三年に分けても構わないのでそういうものを見せていただくようお願いしたい。

(高橋館長)

学芸員とも相談して、ご覧いただく機会を設けていきたいと思っている。

(山浦委員)

よその県の学芸員の話では、新潟市は二つも美術館があり、すごいと言っている。美術館はやはり所蔵品だと思うので、もちろん展覧会もいいものを行っているが、先輩たちが集めた所蔵品をもっと市民に見せてもらおうとありがたい。

(2) 新潟市美術館・新津美術館 令和8年度事業計画について

(事務局)

パワーポイントのスライドと資料に沿って、新潟市美術館と新潟市新津美術館の令和8年度事業計画について説明。

(塚田委員)

新津美術館の田中達也展だが、前回は2、3年前だったと思うが、また間を置かずに開催となる。二つの展覧会に違いが当然あると思うが、どういう点なのかということと、具体的なことは決まっていないと思うが、お客様へのアピールの仕方、新しく工夫される点はあるのかということを知る範囲で聞かせたい。

(奥村係長)

今回の田中達也展はやはり非常に人気の展覧会で、休館を開けて多くのお客様にご来館いただきたいというところで検討材料になった。前はテーマごとにテーマに即した展示をしていたが、今回は田中達也の創造の源がどこからくるのかという切り口での紹介で、前回と作品がガラッと変わる。田中達也さんの展覧会は巡回が終了すると全部崩してしまうということで、立体作品で実物の作品として見られるのはこしかなないことをPRしていきたい。

(塚田委員)

作家さんがライブ感をもって作っているということが伝わったら、大勢の方が興味を持つと思う。

(馬場委員)

1月から3月の「新津美術館の舞台裏」という企画展についてですが、NHKで「ザ・バックヤード」という番組あり楽しく拝見させていただいているが、今、働く人の現場を裏側からどう見えるのかということが注目を浴びている。タイムリーな企画で、美術館というのはなかなか見えないところがあるが、どのような内容の企画を考えられているのか。

(上池主査)

具体的な構成としては、博物館法で定められている美術館の機能である五つ、収集、保管、調査、展示、教育普及を軸に、新津美術館の取り組みやこれまでの作品収集の成果などがわかりやすいように、五つの構成の中で見せていくということを考えている。バックヤードというお話が出たが、会期中にはバックヤードツアーも計画しており、学芸員の仕事をちょっと体験できるようなワークショップもできないかなと思っている。新津美術館の事務室を出た廊下の壁には8組の作家さんがいろいろなイラストを描いていて、とても貴重で見応えもあるものなので、この機会にお見せしたいというところを売りに、舞台裏という展覧会名にしてみた。

(馬場委員)

舞台裏というところちょっとウラっぼいので、できたらオモテとして、広報的な部分で明るく見せられるように期待している。

(佐藤会長)

新津美術館の事務室にお邪魔した際に、廊下の真っ白い壁に綺麗に描かれていた。廊下が狭いので、自由に見学してもらうには大変かなと思う。

(上池主査)

人数を絞ったツアー形式で、安全に見ていただけるようにと考えている。自由に出入りできるような形にすると、セキュリティ的にも課題があるので、時間とか曜日を決めて、案内人を立ててという形で考えている。

(佐藤会長)

バックヤードツアーというような募集か。

(上池主査)

できるだけたくさんの人に見てもらいたいので、どのような形にするのか検討している。

(捧委員)

新潟市美術館の来年度の企画展がすごく面白そうで、企画の発想がすごいと思う。例えば「画家のパレット」や「当世越後三崎人」をどうやって見つけてこられるのか。学芸員がアンテナを張ってやってみようとなるのか、その発想の仕方を聞きたい。

(滝沢特任館長)

美術館同士の情報交換の中でこういう展覧会があるから、そちらの美術館でもやりませんかという話もあるし、企画会社がこういう展覧会をやりませんかという形で声をかけてくるケース

も多い。あとは、それぞれの美術館の学芸員が、こういう企画を練って温めている、今度開催したいがどうかという、自主的な形で展覧会を企画する場合もある。それはどこの美術館も同じことだと思うが、さまざまなケースで、最終的に展覧会が決まってくる。「当世越後三崎人」はある学芸員が温めてきた企画で、そろそろ開催の時期ではないかということでタイミングを測っていて、この年あたり開催しようと、今計画している。

(捧委員)

「路傍小芸術」展も発想がすごい。美術のはざまみたいな展覧会で、美術なのか美術じゃないのかという面白い発想だと思った。それから「画家のパレット」はリアルなパレットか。

(滝沢特任館長)

日動画廊さんが画家の方に声をかけてパレットを集めたり、あるいは描いてもらってそれを取得したりとかいうかたちで所蔵しているもの。

(捧委員)

先ほどのスライドを見ていたら、絵が描いてあったので、パレットに絵を描いたものなのではないか。

(滝沢特任館長)

そういうものもあるし、日動画廊さんが頼んで、そのために描いたものもある。

(塚野学芸員)

もともと日動画廊という画商で、画商というものは絵を売る商売だが、基本的にいい絵というものは売ってしまうから手元に残らない。その中で画家との関係を構築して行く中で何か特別なものを集めてみたいという話があったらしく、画家からパレットを譲っていただき、パレットのコレクションを一つ作ったら、他の美術館にはないコレクションができるのではないかという発想のもと集め始めた。先ほどスライドで写したユトリロのパレットも展示予定だが、そのパレットが日本で展示された際、それを見た時に、画商と画家の関係をパレットでつないでみたら面白いのではないかというきっかけがあったと聞いている。今回いろいろな作家のパレットが展示される予定なので、ぜひ見ていただきたい。

(田中副会長)

新潟市美術館の企画展について二つ聞きたい。一つは「当世越後三崎人」で非常に面白そうだなと思った。これまでの担当の方の情報収集や研究が結実するものであって、普段から非常にお忙しい中、なかなかそういう時間を確保するのは難しいと思うが、こうした企画に取り組んでいるということは、本当に素晴らしいことだと思っている。この展示も、既存の美術という考え方を押し広げるような展示になるのではないかと勝手に解釈している。美術館には親しみやすい作品を展示して、美術のファンを増やすという使命もあると思うが、既存の美術という概念を壊して押し広げていくという役割もあるのではないかと考えている。そうでないと、単なる既存概念の再生産でしかないので、この「当世越後三崎人」には非常に期待している。ただターゲットというか、客層に関しては難しいところもあるのではないかと想像している。それに関して、どのように来館者を広げていこうと考えているのか伺いたい。そのアイデアをぜひ私もいただきたいと思っている。二つ目は二つの美術館へのお伺いだが、今後、美術館以外の施設との連携・企画というものは考えているかということで、どちらも美術という概念を押し広げるという観点からお聞きしたい。

(荒井係長)

一つ目の「当世越後三崎人」に関しては、現在開催中の「路傍小芸術」担当者による熱い企画で、乞うご期待というところだが、美術という既存の考え方を押し広げるという点で、ご推察の

通りかと思う。質問の趣旨としては、それを広い客層にどうやって訴えるかということだと思うが、私たちも悩みどころで、これから方策を練らなければいけないと思っている。実は三崎人の内容は必ずしもすべてを明かされているわけではないが、候補に挙がっている人物は、我々学芸員が街中を歩いていたり、美術家と知り合ったり、画廊に行ったりする中で、得られた人脈だと思っている。先ほど紹介した上原木呂氏も、何年か前にNSG美術館や砂丘館などでも展示をしたり、東京でも定期的にはと言えないが、ちょこちょこ展示はされてきた。実際美術館にも何回も訪れていることもあって、我々のすぐそばに居る、新潟の地元の人間にとっても、なんか変わったおじいちゃん、近所にいたあのおじいちゃんが実はすごい人だったというのを地域の方にも知っていただきたいということから、NHKさんや地元メディアさんのお力も借りながら、実は身近にある存在だということも、周知しないといけないと思っている。あとは、私たちも試行錯誤しながらやっているSNSでの発信で、若い方の口コミで人づてに広まっていく動きも期待したい。路傍小芸術にしても「当世越後三崎人」にしても、そういう広がり方が似合っているのではないかと考えている。二つ目について、新潟市美術館に関してになるが、今後、美術館以外の施設との連携の企画ということで、今すぐ具体的にというわけではないが、これまでも西大畑界隈の文化施設と旭町学術資料展示館も加わっている「異人池の会」の場で連携企画の話が出ることもあり、いいタイミングで実を結べないかと考えている。また、当館特任館長も審査に加わっているゆいぽーとのアーティストインレジデンスとの連携では、アーティストの滞在中に、ワークショップでゆいぽーと側から美術館に来館するということはこれまでもあった。その後も過去に滞在した作家が当館の市民ギャラリーを借りて発表してくださったり、何年か前の新潟映像祭にも参加していただいたり、施設というよりはアーティストとの結びつきで、まだ点が線にも面にもなっていない感じだが、そういうきっかけを見つけて繋がってほしいと思う。また、改修工事後は休止してしまっただが、図書館の利用者が減っているなかで、図書館ももっと外に打って出たいということで、公民館や病院などに蔵書を持ち出して、ちょっとした図書コーナーを設けている一環で、一時館内に出していたということもあるので、機会を見つけて、そういうことを定期的にやっていければと考えている。今のところ具体的に何をどうするということが計画的に行われているわけではないが、今後も考えていきたい。

(高橋副館長)

休館明けの初日にリフレッシュオープンセレモニーをさせていただいた。その一環でエントランスにて当館にあるグランドピアノも使ったピアノ・バイオリン・フルートによるミニコンサートを開催した。美術館という雰囲気の中でのコンサートというのは非常に良かったと思っている。そういう中で、クラシックストリートという新潟市のいろいろなところでクラシックをやるというイベントから、美術館も会場の一つとしてできないかという打診があり、今年のゴールデンウィークに開催を予定している。美術館としてもクラシックを聞きに来た人に展示会も見てもらえる効果を期待している。

(高橋館長)

新津美術館では、美術館がある花と遺跡のふるさと公園内の県立植物園、新津フラワーランド、埋蔵文化財センターと、秋葉区主催で定期的集まる場があるので、そういったところで情報交換をしている。他にも秋葉区には鉄道資料館という施設もあるので、両館を訪れると割引になるという連携などもしている。そういった情報交換の中から見出していきたいと思っている。

(奥村係長)

具体的に連携が決まっているわけではないが、今年度新津美術館は休館していたので、公民館で美術講座の短いバージョンや学童対象のワークショップを行った。美術館に勤める職員として

は、美術館に足を運んでほしいというのが本望だが、美術館でやる美術講座はちょっとハードルが高い、公民館の短めの講座だったら自分も行けそうという方が多くいらっしゃるのか、公民館を会場とした講座では、公民館に通い慣れた人が聞くという需要を確認できた。また、公民館や学童の現場の方には、学童の夏休み時期の活動の場を広げたいという考えがあるようなので、そういったところでの連携の余地はあるのかもしれない。ただ、美術館活動と両立しながら、どういった協力関係が結べるのかは慎重に検討しなければならないとも思った。

(田中副会長)

新潟市美術館の「もしもねこ展」では、同時期に県の歴史博物館でも浮世絵の展覧会があった。博物館と美術館の両方で浮世絵が見られ、すごく良いことだと思ったし、新津美術館でも、以前、埋蔵文化財センターと一緒に企画展をされていたことも非常に良かった。

(三保委員)

「新津美術館の舞台裏」でバックヤードの話があった。テレビの「ザ・バックヤード」では、職員の方たちのすごい努力が伝わってくる。「新津美術館の舞台裏」がどんな風に具体的になるのかわからないが、例えば美術館職員の方たちが当たり前と思っていることでも、私たちが見るとすごいなと思うことが絶対あると思う。例えば先ほどスライドで出てきた香炉みたいなものも、その辺に置いてあるだけではなく、何かに包んで箱に入れて保存していると思うが、そういうことも素人にはわからない。自分の家に親から伝わったものがあるが、その辺に置きっぱなしにしている。皆さんからすれば当たり前かもしれないが、美術品をこのように保存していると強調していただくと、どうやって保存しておけばいいのかわかっていいと思う。例えば掛け軸だと、茶道のルールの中で、縛るものではなく、こうやってやるんだよと習っているが、他の人たちを見ると、掛け軸の紐でぐるぐる巻いてぎゅっとしめてあったりしている。なんでも鑑定団に出てくるのも虫食いだったりシミが出たりしている。そういうことをこの舞台裏で見せてもらえないか。例えば鑑定団では油絵も飾りっぱなしはダメだといわれるが、それだって学芸員の皆さんも絵をそのままほうり投げてあるわけではなく、綺麗に梱包して片付けてあると思う。美術館ではこうやって保存していますといった講座やアピールの場所、例えば講座だけじゃなくて、展示している会場で写真で見せてもいいと思うので、こういうチャンスに皆さんの仕事をアピールしてくれたらと思う。

(上池主査)

言っていたこともそのまままるまるやろうと思っているので、できるだけわかりやすく、個人的には自慢話にならないように、普段お見せできないようなことも見せようと考えている。今回のテーマは美術館学芸員の日常業務の「情熱」と「限界」を見せるというところを個人的な裏テーマにしているので、私たちが日頃、情熱を傾けてやっている、でもでき切らない部分もある。そして、これが今後の課題だという部分まで掘り下げて紹介することができれば、美術館への市民の方々の理解も深まるし、親しんでいただけるかなと思っている。

(佐藤会長)

もし今の三保委員のアイデアが企画されて広報されたら市民はかなり希望すると思う。我が家にもシミだらけの掛け軸等があるが、ぜひそのような保存スキルを習いたいと思った。

(鈴木委員)

ちょっと前に戻るが、「ほぼせんてんてん、」の展示のスタイルにびっくりした。何か工事現場みたいな感じを受けたが、すごく思い切ったやり方だった。今後もそういうものをみたいと思う

がいかがか。二つ目は、新津美術館の令和6年の報告にある捕虫トラップ調査について、毎年やっているものか、私は虫の会にも入っていて非常に興味がある。

(荒井係長)

「ほぼせんてんてん、」の工事現場風の演出に関して、先ほど「新津美術館の舞台裏」でもやろうとしているということだが、「ほぼせんてんてん、」でも、美術館の資料やその取り扱い方、学芸員という職業のあり方のようなところも垣間見せたいということで、普段は表方に出さない展示に使っている道具類も展示を試みた。そういうシチュエーションがあれば、今後もする可能性がある。「路傍小芸術展」も一部そのような演出があるので、ぜひご覧頂ければと思う。あまりやりすぎるとまたかと思われるかもしれないので、いいバランスで出して行きたい。

(奥村係長)

捕虫トラップ関係については、展示室や収蔵庫の環境維持保全のため、捕虫トラップ、平たく言うとゴキブリホイホイの小型版のようなものを各所に置いている。例えば収蔵庫では、文化財害虫、資料・作品にとって悪い虫がいないかということ定期的に確認し、仮に何かあった場合には、前回は確認できてなかったが、今までの間に何が起こったのか、作品の出し入れがあったのか、人の出入りがあったのかを追跡し、掃除に努め、また入室する際には、より気をつけることで環境維持に努めている。いないに越したことはないが、いた時にすぐ対処できるように定期的に確認する作業になる。

(大竹委員)

先ほどNHKの力を借りてという話があった。NHKにはCMがどうのこうのということあるが、民間も含めて公共の美術館がやるものについては、そんなに制限がかかったりすることはない。当然、新潟の放送局としては、地域の文化の醸成や普及振興に寄与していくことも大きな役割だと思っているので、例えば今年度でいうと、會津八一記念館が開館50年の節目だったということで、館長さんからぜひ日曜美術館に取り上げてくれと言われた。さすがに日曜美術館をあれ一本でやるのは難しいが、最後に各地の美術館でやっている展覧会のアートシーンというコーナーがあり、東京の日曜美術館の制作の人たちに相談に行ったら、新潟局で取材をし、それを納入してくれるのであれば放送するのはやぶさかではないということで、新潟局でニュースにして、その素材を東京に送ってアートシーンの中で放送したら、あとで館長さんにすごく感謝された。捧委員の雪梁舎美術館でも伊藤赤水さん、歴代赤水さんの作品を一堂に会した展覧会があり、これも先代は人間国宝の方でもあり、大きなニュースだし、これは当然取材して、ニュースにして伝えさせてもらった。それがどこまで来場者に影響あったかどうかはわからないが、そういうことはできるので、何かあったらご相談していただきたい。決して敷居は高くはない。

(3) その他

(三保委員)

ミュージアムショップについては、この先も見込みはないものか。そちらも楽しみに来ている。

(高橋副館長)

以前のミュージアムショップは改修工事が始まるタイミングで契約が切れ、改修工事期間中に事業者の募集を行ったが応募がなかった。これはいけないということで、2回目の募集も行ったが、手を上げてくれる事業者がいなかった。ミュージアムショップは美術館の魅力の一つであると思うので、私どもで他の美術館でスポット的に出店をしている業者に営業に行った。興味を示していただいたが採算性が問題ということで出店に結びつけることができなかった。美術館に行

くつついっいろいろなものを買ってしまうということがあると思う。現在エントランスで細々だが図録と絵葉書を販売しているが、これでいいとは思っていない。展覧会の状況、グッズの種類や数などを踏まえ、スポット的にミュージアムショップを展開できないか検討している。

(佐藤会長)

ミュージアムショップが再開されることを楽しみに待ちたい。今エントランスには椅子が並んでいるが、過去には所蔵品である草間彌生さんの立体作品「流星」を展示していたと思う。出入口付近で湿気の問題があると思うが、再び、エントランスに展示することは難しいものか。新潟市美術館を代表する所蔵品の一つであり、大きなインパクトのある作品である。昔、六本木の森美術館開催での草間彌生展で鑑賞した時に、新潟から来てくれたのだと思って感激した。

【配布資料】

- ・資料1 両館の運営方針
- ・資料2 令和6年度 新潟市美術館事業報告
- ・資料3 令和6年度 新潟市新津美術館事業報告
- ・資料4 令和8年度 新潟市美術館事業計画（案）
- ・資料5 令和8年度 新潟市新津美術館事業計画（案）
- ・資料6 令和8年度 両館の年間展示スケジュール